

ユーザーズマニュアル
CentreCOM[®] 3600 シリーズ用
2- スロット・シェアード・ラック
CentreCOM[®] 36C2
(19 インチラック取付用)
CentreCOM[®] 36E2
(据置用)



使用および取り扱い上の注意

安全のために必ず守ってください。

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ず守ってください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。



カバーを外さないでください。

本製品の内部には高電圧の箇所が存在します。感電の恐れがありますので、マニュアルに記載がある場合を除いて、絶対にカバーを外さないでください。ユーザーに必要な部品は内包されていません。



稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。



正しい電源を使ってください。

本製品は、製品の底面のラベルに明記された電圧範囲で動作します。ご使用前に必ずご確認ください。



正しい電源コードおよびコンセントを使ってください。

本製品に電源を供給する際には、本製品に添付されている専用の電源コードをご使用になり、電源コードのプラグ（接地端子付き3ピンプラグ）は、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントの使用により、接地が正しく取られていない場合、本製品の金属部分に触れたときに、感電する恐れがあります。

電源コードは無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。また、圧力がかかりコードがつぶれてしまうような箇所に電源コードを敷設しないでください。

テーブルタップをご使用になる場合、たこ足配線をしないでください。たこ足配線は、火災の原因になります。



通気口をふさがないでください。

本製品の通気口をふさがないでください。通気口をふさいだ状態で本製品を使用すると、加熱などにより故障、火災の恐れがあります。



取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えたりしないでください。

動作温度

本製品は、指定された動作周囲温度の範囲でご使用下さい。動作可能な周囲温度範囲は、マニュアルに記載されています。特に、本製品をラックなどに組み込んでご使用になる場合、換気には十分ご注意ください。また、専用のラックが存在する製品については、必ず専用のものをご使用下さい。



異物を入れないでください。

換気口、拡張スロットなどから金属、液体などの異物を入れないでください。本体内部に異物が入ると火災、感電などの恐れがあります。



設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて

本製品の設置、ケーブル配線、移動などを行う場合は、必ず電源ケーブルを抜いて行ってください。



次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因にもなります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



日常のお手入れ

本製品の汚れは、やわらかい乾いた布でふいてください。ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。製品の変形、変色の原因になります。

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社 (アライドテレシス (株)) の所有するものであり、
当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。
当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改定することがあります。
また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 1997 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、
各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

1997年 7月

ver 1.0 pl 0

初版

目次

	使用および取り扱い上の注意	ii
	ご注意	iii
	商標について	iii
	マニュアルバージョン	iii
0	このマニュアルについて	0-1
	C3600シリーズ用ラック各製品名の構成チャート	0-2
	C3600シリーズ用ラックの種類	0-2
1	設置方法	1-1
1.1	製品概要	1-2
1.2	シェアード・ラックとは	1-3
1.3	内容物の確認	1-4
	1. C36C2ラック同梱物	1-4
	2. C36E2ラック同梱物	1-5
1.4	設置方法	1-6
1.4.1	サイドパネルの取り付け	1-7
1.4.2	バックプレーンの取り付け	1-7
1.4.3	C36C2の 19インチラックへの取付け方法	1-8
1.4.4	C36E2の設置について	1-9
1.5	使用上の注意	1-10
2	シェアード・ラックの機能	2-1
2.1	シェアード・ラックの機能	2-2
2.2	モジュール構成について	2-3
2.3	マスターモジュールの引継方法	2-4
2.4	専用ラック内の設定データの引継方法	2-5
3	シェアード・ラックで使用するハブ	3-1
3.1	C3600シリーズ	3-2
3.1.1	マネージメントモデルのスタック時の機能	3-3
3.1.2	スレーブモデルのスタック時の機能	3-3
3.2	AT-TSシリーズとの混在の禁止	3-4

4	トラブルシューティング	4-1
4.1	基本的な注意点	4-2
4.2	不具合のあるモジュール（ハブ）のリセット方法	4-3
4.3	不具合のあるモジュールの交換方法	4-4
4.4	各モジュール（ハブ）のトラブルシューティング	4-5
	(1) 電源がオンにならない。	4-5
	(2) 通信できない。	4-5
	(3) スタックしたハブ間で通信ができない。	4-6
	(4) PORT ACTIVITY LEDが点滅したままになる。	4-6
A	仕様	A-1
A.1	コネクタの仕様	A-2
	・バックプレーンコネクタインターフェース	A-2
A.2	機械的、電気的および環境仕様	A-3
S	保証とユーザーサポート	S-1
	調査依頼書(C3600 シリーズ・シェアード・ラック) ...	S-3

O

このマニュアルについて

この「ユーザーズマニュアル」は、以下のような構成になっています。

第1章 設置方法

ラックの組立方など、専用ラックの設置方法について説明しています。

第2章 シェアード・ラックの機能

シェアード・ラックの機能を説明します。

第3章 シェアード・ラックで使用するハブ

シェアード・ラックで使用する C3600 シリーズのハブについて説明します。

第4章 トラブルシューティング

専用ラック使用時のトラブルの対処方法について説明します。

付録 A 仕様

動作条件、コネクタのピンアサインなどの技術的な詳細情報が記載されています。

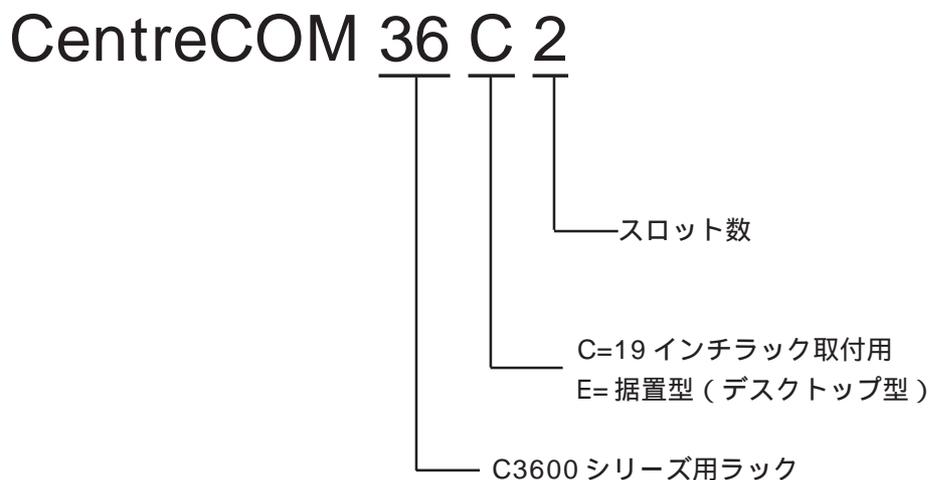
.....C3600 シリーズの各ハブの設定に関しては各機器のマニュアルを参照してください。

... 「C3600 シリーズハブ」とは、CentreCOM 3690TR スイッチングハブを含まないハブ（リピータ）(CentreCOM 3606F, CentreCOM 3608, CentreCOM 3612T/TR, CentreCOM 3624TR/TRS) を指します。

.....本マニュアルの中の製品名 CentreCOM 36XX については、紙面の都合上 C36XX と記載している部分もありますので、ご了承ください。

C3600 シリーズ用ラック各製品名の構成チャート

3600 シリーズ用ラックは下記のルールで名称が構成されています。
ご購入・お問い合わせなどの際にご参照ください。



例： CentreCOM 36C2 (シェアード型 2 スロットラック (19 インチラック取付用))

- "36" = C3600 シリーズ用ラック
- "C" = 19 インチラック取付用
- "2" = 最大 2 モジュール収納

C3600 シリーズ用ラックの種類

C3600 シリーズラックとして、以下のように用途に応じて 8 タイプをご用意しています。

1. 19 インチラック取付用 - (EIA 規格に準拠した 19 インチラックへの取付けが可能です。)

- ・ CentreCOM 36C1 (1 スロット用)
- ・ CentreCOM 36C2 (2 スロット用)
- ・ CentreCOM 36C4 (4 スロット用)
- ・ CentreCOM 36C8 (8 スロット用)

2. 据置用 - (卓上でご使用になれます。)

- ・ CentreCOM 36E1 (1 スロット用)
- ・ CentreCOM 36E2 (2 スロット用)
- ・ CentreCOM 36E4 (4 スロット用)
- ・ CentreCOM 36E8 (8 スロット用)

1

設置方法

本章では、2-スロット・シェアード・ラック C36C2/C36Eの組み立て方と設置方法について説明します。

1.1 製品概要

C3600シリーズ用2-スロット・シェード・ラック "C36C2/C36E2" はパネル組み立て式で、C36C2は19インチラック取付型、およびC36E2は据置型となっています。

また、別途、1、4スロットと8スロット用ラックもあります。これらのC3600シリーズシェード・ラックは、C3600シリーズハブのマスター・スレーブ機能を生かしながら、スタックされたすべてのハブを1つのハブとして機能させることができます。

C36C2/C36E2は、以下の機種に使用できます。

- ・ CentreCOM 3606F
- ・ CentreCOM 3608
- ・ CentreCOM 3612T/TR
- ・ CentreCOM 3624TR/TRS

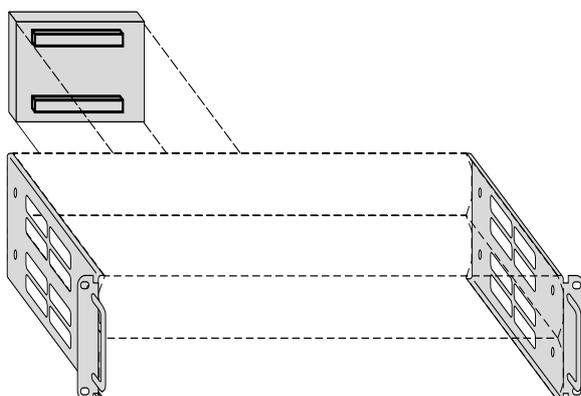


図 1.1 C36C2 ラック (19 インチラック取付け用)

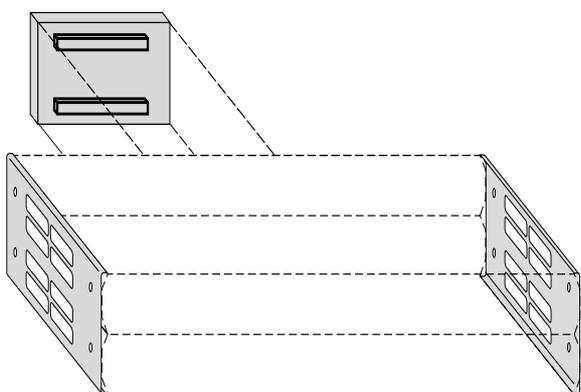


図 1.2 C36E2 ラック (据置用)

1.2 シェアード・ラックとは

シェアード・ラックに収めた複数のハブは、シェア機能によって、一つのハブとして機能します。

スタックした一番上のハブがマスターモジュール、その下のハブがバックアップモジュールになります。さらに、その下がスレーブモジュールになります。

マスターモジュールに内蔵のソフトウェアによって、8スロットラックの場合は各スロットには"1～8"の番号が割り振られます。(2スロットラックの場合は、"1～2")

最上部に設定している(最も小さい数字の)モジュールがマスターになります。たとえば、1番上のスロットがあいている場合には、2番目のスロットのモジュールがマスターになります。

次にマスターより下のスロットに収められたモジュールのうち、マスターの下に設定されている最も小さい番号のモジュールがバックアップモジュールとなります。(2スロットの場合は、2番目のスロットのモデルによって、2番目がバックアップまたは、スレーブになります。)

これらのモジュールの役割分担は、電源投入時やホットスワップを行った場合などに自動的に認識機能によって決定されます。これによって、各モジュールは自分のモジュール機能を受け持つように設計されています。

シェアード機能の詳細については第2章「シェアード・ラックの機能」を参照してください。

36C2/36E2に2台設置した場合は2スロットなので、バックアップとスレーブモジュールは共通となります。

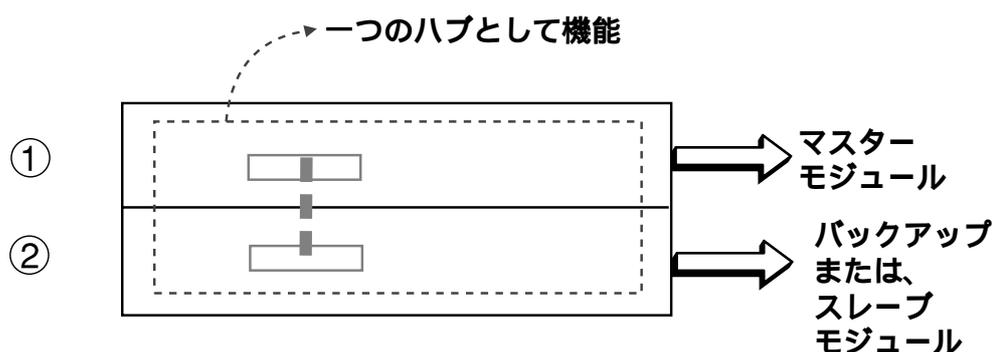


図 1.3 シェアード・ラックの機能

1.3 内容物の確認

まず、梱包箱の中身を確認します。

以下のものが入っているか確認してください。

場合によっては、補足事項を書いた冊子等が追加される場合があります。

1. C36C2 ラック同梱物

・バックプレーン（基板）	×	1
・サイドパネル（ブラケット / ハンドル）	×	2
M4 x 3 皿ネジ（サイドパネル取付用）	×	8
・M5 x 15 なべネジ（19 インチ取付用）*	×	4
・ユーザズマニュアル（このマニュアル）	×	1
・お客様インフォメーション登録カード	×	1
・保証書	×	1
・バーコードシール	×	1

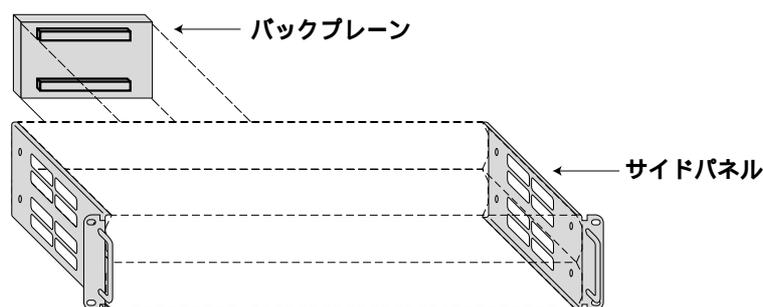


図 1.4 ラックの外観図 (C36C2)



C36C2 を 19 インチラックに取り付けるネジは、ご使用になる 19 インチラックに合ったネジをご用意ください（上記の*のネジが合わない場合）。

なお、19 インチラックの取り付け穴のタテピッチは EIA 規格 (RS-310-C) です。

2. C36E2 ラック同梱物

・バックプレーン（基板）	×	1
・サイドパネル	×	2
M3 x 8皿ネジ（サイドパネル取付用）	×	8
・ユーザズマニュアル（このマニュアル）	×	1
・お客様インフォメーション登録カード	×	1
・保証書	×	1
・バーコードシール	×	1

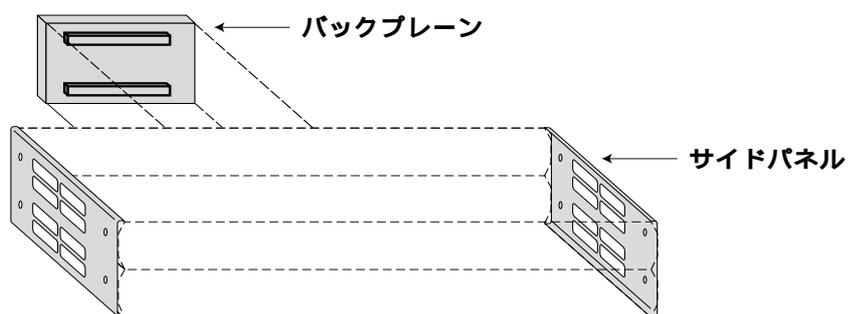


図 1.5 ラックの外観図 (C36E2)

1.4 設置方法



設置する際のハブの構成については、第3章の「シェアード・ラックで使用するハブ」を参照してください。

まずサイドパネルを取り付ける前に、ハブ本体のゴム足を外します。

図 1.6 に示すように、ゴム足を外したら、必ずネジを再度取り付けてください。

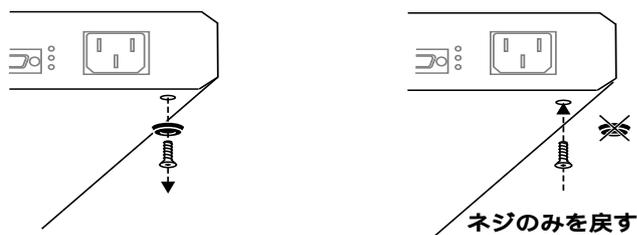


図 1.5 ゴム足の取り外し（背面図）



ネジを戻さないで、ハブのケースが浮いてしまい、サイドパネルの取り付けができなくなる場合があります。

ただし、スタックしたハブを据置型として使用する場合（机等の上に設置する）は、下側になるハブのゴム足は取り付けたままにしておきます。

1.4.1 サイドパネルの取り付け

- (1) 2台の C3600 シリーズのハブを重ねて置きます。

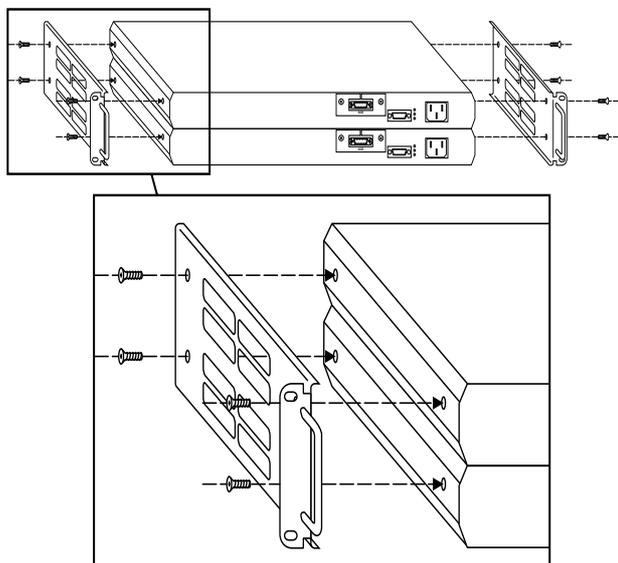


図 1.7 サイドパネルでの左右側面のネジ止め (C36C2 ラックの図)

- (2) ハブ本体の左右にそれぞれサイドパネルを取付け、図 1.7 のように添付されているベネジを使って 4ヶ所を固定します。

1.4.2 バックプレンの取り付け

バックプレーンは上下を間違えないように取付けます。

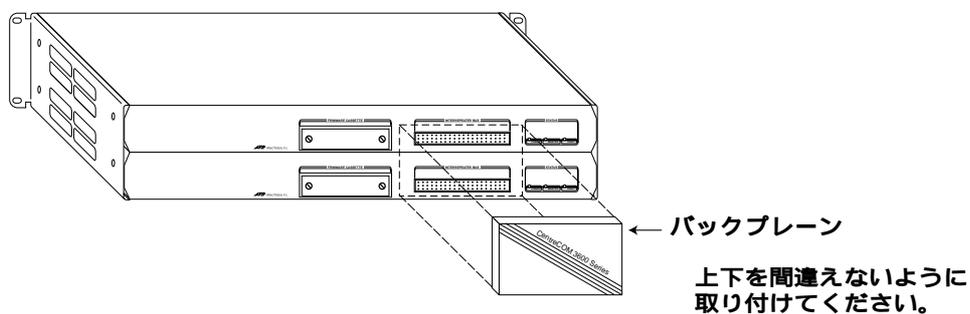


図 1.8 バックプレンの取付け

1.4.3 C36C2 の 19 インチラックへの取付け方法

組み立ての終わったハブを 19 インチラックに取付けます。
 取り付けには左右2ヶ所ずつのネジ穴を使用します。ネジは19インチラックに合ったネジを使用します。

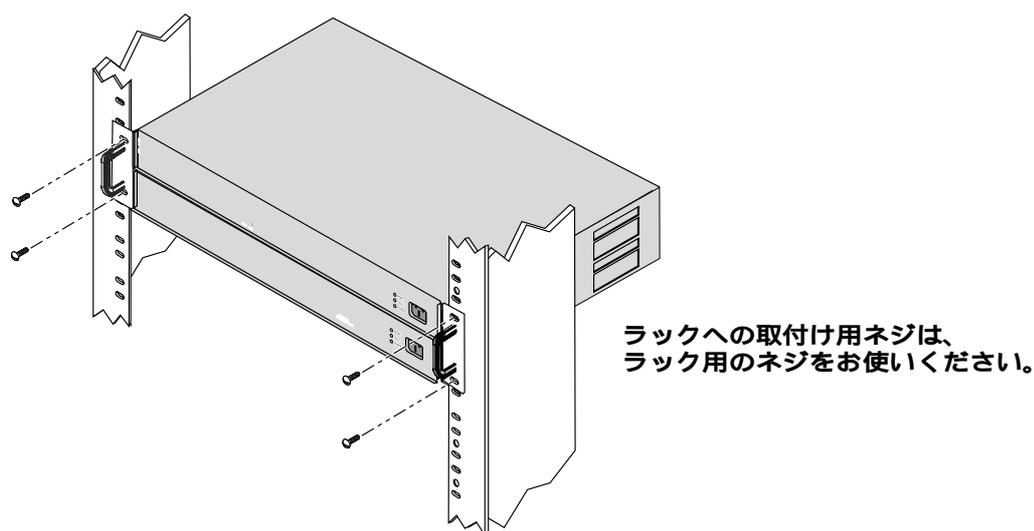


図 1.9 19 インチラックへの取り付け



C36C2 を 19 インチラックに取付けるネジは、ご使用になる 19 インチラックに合ったネジをご用意ください。

なお、19 インチラックの取り付け穴のタテピッチはEIA 規格(RS-310-C)です。

設置の際には、以下の点にご注意ください。

- ・側面の通気口をふさがらないような場所に置いてください。
- ・水分や湿気の多い場所には置かないようにしてください。
- ・ほこりの多い場所に置かないようにしてください。
- ・オフィスなどでは、回りに感電の危険がないような場所に設置してください。
- ・ネットワーク担当者以外が不用意に操作できるような場所に設置しないでください。

1.4.4 C36E2 の設置について

下側のハブにゴム足が付いているのを確認して、所定の位置に置きます。
設置の際には、以下の点にご注意ください。

- ・床面にじかに置かず、しっかりした机やテーブルなどの台の上に置いてください。
- ・側面の通気口をふさがらないような場所に置いてください。
- ・水分や湿気の多い場所には置かないようにしてください。
- ・ほこりの多い場所に置かないようにしてください。
- ・オフィスなどでは、回りに感電の危険がないような場所に設置してください。
- ・ネットワーク担当者以外が不用意に操作できるような場所に設置しないでください。



C36E2のサイドパネルやバックプレーンは、角がとがっている部分もあります。手などが当たってケガをする場合もありますので、設置場所や設置作業には十分ご注意ください。

1.5 使用上の注意

電源投入の順番

- (1) まず、マスターモジュールの電源を入れ、LED表示を確認し、正常に機能していることを確認します。
- (2) 次に、2段目のモジュールに電源を入れ、動作を確認します。



マスターモジュールは必ず一番最初に電源をいれてください。



専用ラック左側面の通気口は、ふさがないようにしてください。



動作確認時などで、コンセントに電源ケーブルを接続したまま機器側をはずす場合は、感電事故等に十分ご注意ください。

2

シェアード・ラックの機能

本章では、シェアード・ラックの各機能について説明します。

2.1 シェアード・ラックの機能

シェアード・ラックに収めた複数のハブは、シェア機能によって、一つの大きなハブとして機能します（この内容は「802.3リピータ MIB」内で定義されます）。

ラック全体の管理は、C3600シリーズハブに内蔵のソフトウェアを通して、マスターモジュールから行うことができます。モジュールの番号は、上から「1～8」（または「1～4」）に割り振られています。（2スロットの場合は「1～2」）

最上部に設置されている（最も小さい数字）モジュールが、マスターモジュールとなります。一般的にスロット1、もしスロット1が空いていればスロット2となります。ラックに収められている他のC3600シリーズモジュールは、スレーブモジュールと呼ばれます。

スレーブモジュールは、マスターモジュール以外のユニットすべてを指します。その中で、マスターモジュールのすぐ下に設置されているモジュールはバックアップモジュールといえます。バックアップモジュールは、常にマスターモジュールを監視し、障害発生時には、バックアップモジュールが引き継ぎ、マスターモジュールになります。

2スロットの場合は、下側のハブがバックアップ、かつスレーブとなります。

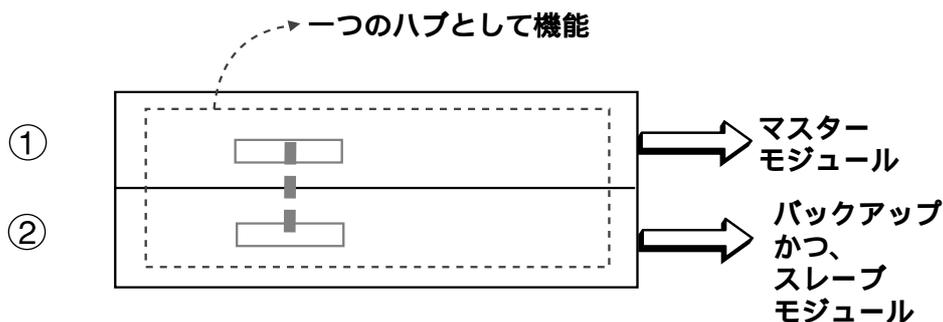


図2.1 シェアード・ラックの機能



マスターおよびバックアップになれるのは、マネージメントモデルだけで、スレーブモデル(3624TRS)は、マスター、バックアップになることはできません（「第4章 シェアード・ラックで使用するハブ」参照）。

2.2 モジュール構成について

ラック内の各モジュールは、ラック内における自分のスロット番号と、他のスロットが使用されているかを認識しています。この情報をもとに各モジュールは、自分がマスター、バックアップ、スレーブのいずれの役割を果たすのかを決定しています。

これらの一連の処理は、ラックの電源投入時、またはリセット時に動作します。各モジュールは、その後、各々の役割で運用を始めます。さらに各モジュールは、定期的にラックの設定をチェックします。もし何か変更があれば、各モジュールが適切な役割を果たすように、再び設定が行われます。もし、どれかのモジュールが外されたり、追加されたりしたならば、各モジュールは必要な新しい設定に自分自身を再調整します。設定変更が検知されると、2秒以内に処理が実行されます。

マスターモジュールがダウンした場合には、バックアップモジュールが新しいマスターモジュールとなります。

もし、マスターモジュールより上の位置にモジュールが追加されたときには、現在のマスターモジュールの機能を新しいモジュールに移し、現在のマスターモジュールをバックアップモジュールとします。



マスターおよびバックアップになれるのは、マネージメントモデルだけで、スレーブモデル(3624TRS)は、マスター、バックアップになることはできません(「第4章 シェアード・ラックで使用するハブ」参照)。

2.3 マスターモジュールの引継方法

マスターモジュールとバックアップモジュールは、正しく動作しているかをチェックするために、一定の間隔で監視(情報交換)を行っています。もしバックアップモジュールが、マスターモジュールからの情報を数秒間待っても受信できない時には、バックアップモジュールは、マスターモジュールに故障があったと判断して、自動的に自分がマスターモジュールとなります。

もし、故障したマスターモジュールがはずされた場合にも、新しいマスターモジュールが再設定されます。その時には、現在のバックアップモジュールがマスターモジュールとなります。

バックアップモジュールの故障は、モジュール自体をはずす以外に検出することができません。これは、バックアップモジュールの監視を行っているスレーブモジュールがないためです。

2.4 専用ラック内の設定データの引継方法

マスターモジュールは、不揮発性のFLASH ROMにハブマネージャー（管理ソフトウェア）設定情報の全てを記録しています。この情報には、端末特性、ポート設定、ユーザーの定義したシンボリックネーム等が含まれています。マスターモジュールは、インストールされている各スレーブモジュール内のFLASH ROMにもこの情報をコピーします。ソフトウェアは、電源のオフ、モジュールの故障、マスターモジュールの交換を行っても設定情報を失うことはありません。設定データの引継方法は、いくつかのケースによってその引継方法が異なるため、ケースごとに以下に説明します。

1. マスターモジュールの取り外し（故障）の場合

マスターモジュールが故障、または移動によって取り外された場合、バックアップモジュールには引継ぎに必要な設定情報はあらかじめコピーされています。従って、バックアップモジュールがマスターになった時に再設定を行う必要はありません。これらの交換は数秒で行うことができます。

2. 新マスターモジュールを設置する場合

(a) 2スロット用ラック（2モジュール）の場合

電源をいれたままモジュールを交換（ホットスワッピング）すれば、設定データは常に保持されます。つまり交換作業を行っている間中、モジュールの電源を入れたままにしておくということです。これは前にも説明しましたが、適切なデータがどちらであるかを決めるのに、立ち上げてからの動作時間を基本にしているためです。

しかし、同時に立ち上げた場合、ラック中にインストールされているモジュールが2台だけである時には、いくつかの制限があります。この場合、どちらのデータが正しいか、判断する方法がありません。システムはデフォルトとしてマスターモジュールのデータを使用します。この時、もしマスターモジュールのデータが正しくなければ、再設定が必要になるということになります。

もし何らかの理由によって電源を切らなければならない場合、以下に示すどちらかの方法で交換を行って下さい。

- (1) 古いマスターモジュールを引き抜き、バックアップモジュールをマスターモジュールの位置にインストールして下さい。そして、空いたバックアップモジュールの場所に、スペアモジュールをインストールして下さい。元のバックアップモジュールのデータが使用されることとなります。
- (2) 上側のモジュール（マスター）を取り外し、下側のモジュール（バックアップ）を上側に取り付け、スペアモジュールを下側に取り付けます。これによって、バックアップモジュールが「マスター」になり、スペアモジュールが「バックアップ」となります。

(b) 3モジュール以上の場合(4、8スロット用ラックを使用する場合)

新しいマスターモジュールを設置した時(現マスターモジュールより上に設置された場合)新しいマスターモジュールは、以前インストールされていた環境の古い情報を持っている場合があります。新マスターモジュールが動き始めたとき、その設定情報が正しいか正しくないのかは、マスターモジュールには正しい判断ができません。従って、新しいマスターモジュールを設置する場合、その設定されている内容について注意する必要があります。

新しいマスターモジュールを設置する場合、新旧どちらの設定を有効にするかを判断する機能が2つあります。1つはホットスワップ機能、もう1つはVoting機能です。ホットスワップ機能は、各C3600シリーズには、リセット後の動作時間が記録されていますので、それを利用して設定データを決定できます。もし、バックアップモジュールがマスターモジュールより早く立ち上がり、長い間動作していたならば、バックアップモジュールのデータを使用します。この場合には、バックアップモジュールから、新しいマスターモジュールにデータがコピーされます。

すべてのハブの電源を同時に入れた場合、Voting機能が動作します。votingは、各インストールされているモジュールに対してポーリングを行い、各々の設定データを調査します。最も多くのモジュールに格納されている設定データが使用されます。例えば、モジュールの1、3、4に'A'と呼ばれるデータが存在し、モジュールの5に、'B'と呼ばれるデータが存在したとしたら、データ'A'が正しいとされ、ソフトウェアはデータ'A'を使用します。この機能は、4および8スロット用のラックに適用されます。

もし、いくつかのモジュールが、あらかじめ別のラックや異なるネットワーク上から一緒にインストールされていたとすると、votingが行われて、これらの正しくないデータが使用されてしまいます。こうしたことは、設定の変更の重ね書きを避けるために、マスターモジュールがvotingを行う必要がないように、バックプレーンの電源を常に入れておくことによって回避することができます。



単体で使用されているC3600シリーズでは、バックアップはありませんから、スペアに交換するときには再設定を行う必要があります。

3

シェアード・ラックで 使用するハブ

本章ではシェアード・ラックに取り付ける C3600シリーズのハブについて説明します。

3.1 C3600 シリーズ

C3600シリーズには10BASE-T/2/5/FLの各メディアに対応したマスターとして機能する5種類のハブと10BASE-Tに対応したスレーブとしてだけ機能する1種類のハブがあります。マネージメントモデルはバックボーンポートのメディアタイプが交換可能になっています。

モデル名	ポート数	ポートタイプ	バックボーンポート
マネージメントモデル：			
・ CentreCOM 3606F	6	10BASE-FL	10BASE-T/2/5/FL
・ CentreCOM 3608	8	10BASE-2	10BASE-T/2/5/FL
・ CentreCOM 3612T	12	10BASE-T	10BASE-T/2/5/FL
・ CentreCOM 3612TR	12	10BASE-T	10BASE-T/2/5/FL
・ CentreCOM 3624TR	24	10BASE-T	10BASE-T/2/5/FL
スレーブモデル：			
・ CentreCOM 3624TRS	24	10BASE-T	10BASE5

...バックボーンポートの10BASE-FLのコネクタタイプには、SMA、STの2種類が用意されています。

3.1.1 マネージメントモデルのスタック時の機能

マネージメントモデルは、ラックに取り付けた際にマスターモジュールとして機能することができ、スタックした各ハブの親機となり、SNMP機能を使用して、ネットワーク管理ソフトウェア(弊社Vista Managerなど)でトータルネットワーク管理が可能になります。

- ・ スタックされたすべて C3600シリーズハブの統計データを監視できます。
- ・ マスターのすぐ下のモジュールがバックアップモジュールとなります。
- ・ マスターがダウンした場合、ただちにバックアップモジュールがマスターになります。
- ・ バックアップモジュールはマスターの最新情報をコピーして機能します。
- ・ 複数のマネージメントモデルがスタックされた場合は、一番上のモジュールがマスターとなります。

3.1.2 スレーブモデルのスタック時の機能

スレーブモデルは、マネージメント機能を省略し、ポート数を多く提供するハブです。

- ・ スタック接続した際にマスターに管理されるスレーブモジュールとして機能します。
- ・ スレーブとしてだけ機能し、マスターにはなることはできません。

3.2 AT-TS シリーズとの混在の禁止



C3600シリーズとAT-TSシリーズは、取付部等の寸法は同じになっていますが、内蔵ソフトウェアの仕様が異なり、ラック内での混在使用はできませんので、ご注意ください。なお、ラック外でのネットワーク上での混在使用はなんら問題ありません。

4

トラブルシューティング

本章では専用ラック使用時のトラブルシューティングについて説明します。

4.1 基本的な注意点

- ・ マスターモジュール（ハブ）は一番上のスロットに取り付けてください。
（マスターモジュールは自分より上側のハブをマネージメントできません。）
- ・ スタックされたハブに電源を入れる時は必ずマスターから電源を入れてください。
- ・ 不具合が認められるときは、まず、SNMPが各ハブに内蔵のOmegaソフトウェアで各ハブの状態を診てください。
（ラックに収容されている状態のC3600シリーズはマスターモジュールにしかRS-232ポートでの接続ができないようになっています。マスター以外のC3600シリーズにRS-232ポートで接続する場合は、バックプレーンをはずして接続してください。）
- ・ Omegaソフトウェアを使用後は、必ずQuitしてください。
もし、Quitできない場合や、Omegaソフトウェアに入れられない場合は、次で説明する方法で、該当のモジュール（ハブ）をリセットしてください。

4.2 不具合のあるモジュール（ハブ）のリセット方法

FAULT LED の点灯しているモジュールは以下の要領でリセットしてください。

- (1) Omega ソフトウェアが起動している場合は、Quit してください。
- (2) このモジュールの電源コードを抜きます。
- (3) 約 5 秒間、そのままにします。
- (4) 再び電源コードを差し込みます。

4.3 不具合のあるモジュールの交換方法

前記の方法でリセット不能になったモジュールは以下の方法で交換してください。

- (1) 2つのモジュールの両方とも電源コードをはずします。
- (2) 10BASE-Tなどのネットワークケーブルが接続されている場合は、これらのポート番号とケーブルの対応をメモし、必要に応じてケーブルにタグなどを付けたのち、すべてはずします。
- (3) 19インチラックに取り付けている場合は、19インチラックからはずします。
- (4) バックプレーンをはずします。
- (5) サイドパネルを取りはずします。
- (6) 交換する新規モジュールのゴム足をはずし、ネジを戻します（据置の場合の下側のモジュールの場合はゴム足はそのままにします）。
- (7) 新規モジュールを重ねて置き、サイドパネルを取り付けます。
- (8) バックプレーンを再び取り付けます。
- (9) 19インチラックに取り付ける、または、所定の位置に設置します。
- (10) 上側のモジュール（マスターモジュール）に電源コードを接続し、各LEDを確認し、正常に機能していることを確認します。
- (11) 下側のモジュールにも電源コードを接続し、各LEDを確認し、正常に機能していることを確認します。
- (12) 各ネットワークケーブルを接続します。
- (13) ネットワークが正常に機能していることを確認します。

4.4 各モジュール（ハブ）のトラブルシューティング

ここでは、各モジュール（ハブ）の典型的なトラブルについて説明します。
トラブルの原因は様々ですので、ここでの説明はトラブルシューティングのガイドライン
とお考えください。

(1) 電源がオンにならない。

対策:

- ・ 電源ケーブルに断線がないか確認してください。
- ・ 電源コンセントが通電されていることを確認してください。
- ・ 電源ケーブルの接続を確認してください。

これらが正常でも電源がオンにならない場合には、アライドテレシスのサポートセンター
にお問い合わせください。

(2) 通信できない。

対策:

- ・ 電源を確認してください。

タコ足配線などで電源が不安定になると、機器が誤動作する可能性があります。

- ・ ハブやリピータの数が制限を越えていないか確認してください。

ハブからネットワーク上で遠くにあるホスト（端末）が通信できないときは、
ハブとホストの間にあるハブおよびリピータの数をチェックしてください。ハ
ブとホストの間に設置できるハブまたはリピータの数は4台までです。

- ・ LAN のケーブルを確認してください。

正しいケーブルを使っていますか？ 10BASE-Tの規格に合ったケーブルを
使用してください。コネクタ形状が合っても、内部のより合わせが規格と
違うことがあります。

ハブのポートを代えるとどうですか？ ハブの特定のポートが故障している可
能性もあります。ケーブルを別のポートに差し代えて試してください。

端末（パソコンやワークステーション）とハブの配線は正しく行われています
か？ 端末とハブや各端末とハブ間の配線が正しく行われているか確認して
ください。

- ・フロントパネルの LED 表示(LINK、COLLISION)を確認してください。

通信を行おうとしているポートの LINK LED が点灯していない場合はケーブルの接続に問題がある場合があります。ケーブルの種類や接続状態を確認してください。

- ・Omega ソフトウェアでポート設定を確認してください。

Omega ソフトウェアのポートが Disable になっていたりすると、通信ができません。

各ハブの設定画面で、一つ一つ設定を確認してください。

4

(3) スタックしたハブ間で通信ができない。

原因:

バックプレーン基板のコネクタとの接続が不十分な可能性があります。

確認:

バックプレーンのコネクタの向きを確認しながら、しっかり押し込んで、再度接続を確認してください。

(4) PORT ACTIVITY LED が点滅したままになる。

原因:

ソフトウェアでイーサメータ(ネットワーク負荷量の表示)の設定になっていることが考えられます。

確認:

C3600シリーズハブに添付の「ユーザーズマニュアル」を参照しながら、設定を確認します。

1. Omega のメインメニューから[A: 管理情報(Administration)]を選びます。
2. 次に、[E: イーサメータ]を選びます。
3. [D: 通常の LED 表示 (ポート動作状態)]と[E: イーサメータ]が表示されます。もし、[E: イーサメータ]になっていれば、ネットワーク負荷量の表示状態になっています。
4. 設定すると、すぐに表示状態は変更されます。



工場出荷時に設定では、PORT ACTIVITY LEDは「D: 通常のLED表示(ポート動作状態)」に設定されています。もし、「E: イーサメータ」の設定になっていれば、Omegaソフトウェアで設定を変えないと、リセットしても「E: イーサメータ」の設定のままになります。

A

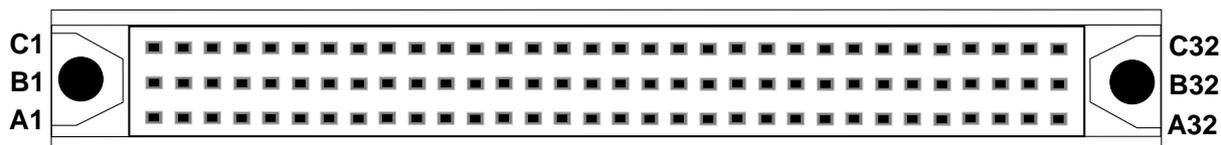
仕様

本章は、専用ラックに関する詳細な情報を必要とする方を対象として説明しています。
C36C2/C36E2の設置・動作条件などを説明しています。

A.1 コネクタの仕様

・バックプレーンコネクタインターフェース

コネクタは、96ピンの平型VMEコネクタが使用されています。



(A1)	NO CONNECT	(B1)	NO CONNECT	(C1)	NO CONNECT
(A2)	NO CONNECT	(B2)	NO CONNECT	(C2)	NO CONNECT
(A3)	NO CONNECT	(B3)	NO CONNECT	(C3)	NO CONNECT
(A4)	GROUND	(B4)	GROUND	(C4)	GROUND
(A5)	GROUND	(B5)	GROUND	(C5)	GROUND
(A6)	D0	(B6)	A0	(C6)	BOXA0
(A7)	D1	(B7)	A1	(C7)	BOXA1
(A8)	D2	(B8)	A2	(C8)	BOXA2
(A9)	D3	(B9)	A3	(C9)	IRCOL0
(A10)	D4	(B10)	IRRD	(C10)	IRCOL1
(A11)	D5	(B11)	IRWR	(C11)	IRCOL2
(A12)	D6	(B12)	NO CONNECT	(C12)	IRCOL3
(A13)	D7	(B13)	NO CONNECT	(C13)	IRCOL4
(A14)	NO CONNECT	(B14)	NO CONNECT	(C14)	IRCOL5
(A15)	NO CONNECT	(B15)	NO CONNECT	(C15)	IRCOL6
(A16)	GROUND	(B16)	GROUND	(C16)	GROUND
(A17)	GROUND	(B17)	GROUND	(C17)	GROUND
(A18)	GROUND	(B18)	GROUND	(C18)	GROUND
(A19)	GROUND	(B19)	GROUND	(C19)	GROUND
(A20)	GROUND	(B20)	GROUND	(C20)	GROUND
(A21)	IREQ0	(B21)	MP0	(C21)	IRCOL7
(A22)	IREQ1	(B22)	MP1	(C22)	BKDAT
(A23)	IREQ2	(B23)	MP2	(C23)	BK TRREQ
(A24)	IREQ3	(B24)	MP3	(C24)	BK TRCOL
(A25)	IREQ4	(B25)	MP4	(C25)	CREQ
(A26)	IREQ5	(B26)	MP5	(C26)	GROUND
(A27)	IREQ6	(B27)	MP6	(C27)	IR_M_EN
(A28)	IREQ7	(B28)	MP7	(C28)	VCC
(A29)	GROUND	(B29)	GROUND	(C29)	GROUND
(A30)	GROUND	(B30)	GROUND	(C30)	GROUND
(A31)	NO CONNECT	(B31)	NO CONNECT	(C31)	NO CONNECT
(A32)	NO CONNECT	(B32)	NO CONNECT	(C32)	NO CONNECT

A.2 機械的、電気的および環境仕様

・物理仕様

C36C2

寸法 : 432 x 249 x 89 mm(W× D × H)
(但し、組み立て時で、突起部等含まず)
重量 : 0.6 Kg

C36E2

寸法 : 432 x 249 x 89 mm(W× D × H)
(但し、組み立て時で、突起部等含まず)
重量 : 0.6 Kg

・バックプレーンインターフェース

寸法 : 122 x 12 x 68 mm(W× D × H)(突起部等含まず)
重量 : 0.1 Kg

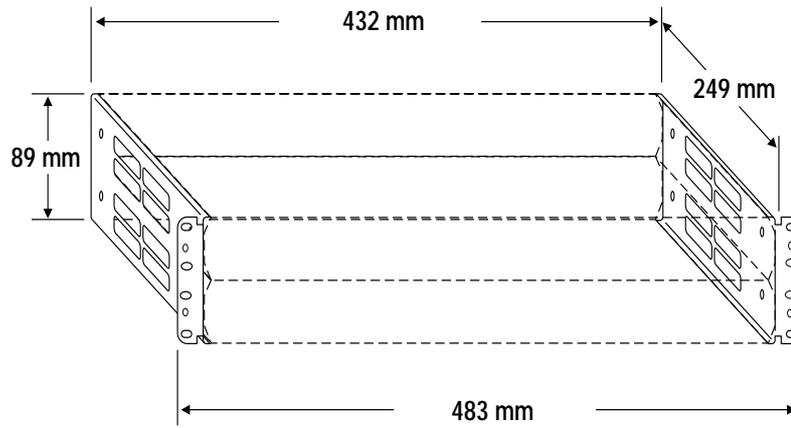
96ピン平型VMEコネクタ × 2

・動作環境

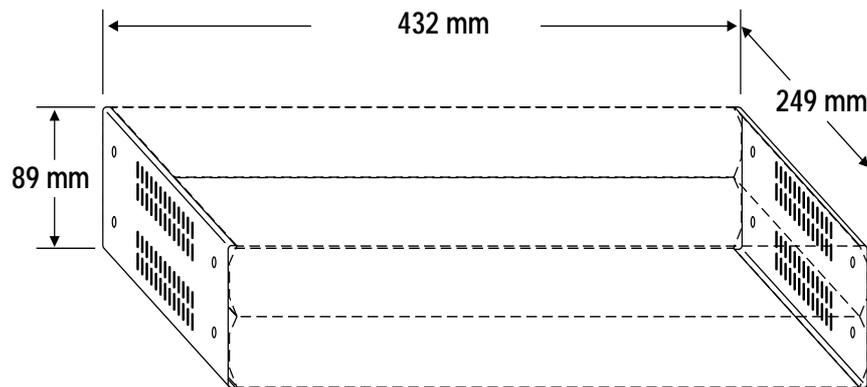
動作温度 : 0 ~ 40
保存温度 : -20 ~ 60
相対湿度 : 5 ~ 80 % (但し、結露なきこと)

・ 認証

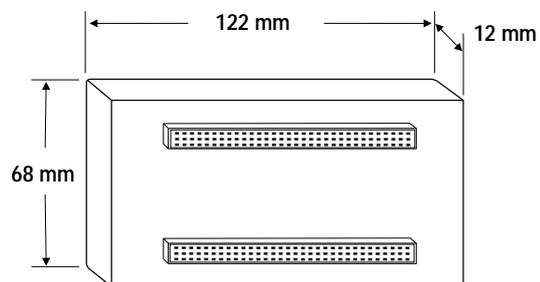
安全性 : UL, CSA, TUV-GS



C36C2 外形寸法



C36E2 外形寸法



C36C2/C36E2 バックプレーン外形寸法

A



保証とユーザーサポート

保証

製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客さまインフォメーション登録カード」に必要事項を記入して、当社「お客さまインフォメーション登録係」までご返送ください。「お客さまインフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、このマニュアルの調査依頼書を（拡大）コピーしたものに必要事項を記入し、下記のサポート先にFAXして下さい。記入内容の詳細は、『調査依頼書のご記入にあたって』を参照して下さい。

アライドテレシス（株） サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772 月～金曜日まで（祝・祭日を除く）
10:00～12:00、13:00～17:00

Fax: ☎ 0120-860-662 年中無休 24時間受付

調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入頂くものです。ご提供頂く情報が不十分な場合には、障害の原因を突き止めることに時間がかかり、最悪の場合には障害の解消ができない場合も有ります。迅速に障害の解消を行うためにも、担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。記入用紙で書き切れない場合には、プリントアウトなどを別途添付ください。なお、都合によりご連絡の遅れる事もございますので予めご了承ください。

使用しているハードウェア、ソフトウェアについて

- * 製品名、製品のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev):

(例)



を調査依頼書に記入してください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品に添付されているバーコードシールに記入されています。

お問い合わせ内容について

- * どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- * エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

- * ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- * 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

調査依頼書(C3600 シリーズ・シェアード・ラック)

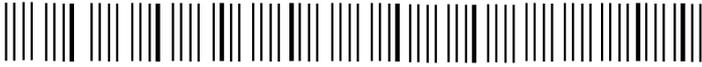
年 月 日

一般事項

- 御社名：
部署名：
ご連絡先住所： 〒
TEL: () FAX: ()
ご担当者：
- 購入先：
購入先担当者：
購入年月日：
連絡先(TEL): ()

ハードウェアとネットワーク構成

- ご使用のハードウェア機種（製品名）、シリアル番号、リビジョン
製品名：C3600 シリーズ・シェアード・ラック C36C2/C36E2

 S/N _____ Rev _____

- お問い合わせ内容 別紙あり 別紙なし
- ネットワーク構成図 別紙あり 別紙なし
設置中に起こっている障害 設置後、運用中に起こっている障害
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

